

生活と自然を守る税へ

学校法人神戸女学院神戸女学院中学部 3年 山口 紗来野

毎年夏になるたびに、私は家族と近所の川に蛍を見に行ったことを思い出す。なぜ「思い出す」のかというと、今はもうその光景を見ることはできないからだ。ある年、青々とした草が生い茂っていた堤防はすべてコンクリートで舗装され、住処を失った蛍たちも、それ以降は姿を見せなくなってしまったのである。

税金は、主に上下水道のようなライフラインの安定した供給や、道路整備といった、いわば公共サービスの充実などに使われている。しかしながら、あくまでこれは我々人間が安全かつ幸福な生活を営むためのものである。勿論それは私たちが暮らす上では欠かせないものであり、そこについての批判的な意見は一切抱いていない。ただ、生物多様性という言葉がしきりに叫ばれるこの時代に、私はこの豊かな生活と、自然を守ること、この二つの両立を目指すべきなのではないだろうか考える。

例えば最初の蛍の話にこの「両立」を組み込んでみる。堤防の舗装は我々の安全な生活のためには不可欠なものだ。しかし、ただ舗装をするだけだと、蛍が生きるために必要な環境がすべて失われてしまう。ならば、工事は行いつつも、せめて一部だけでも自然をビオトープとして残してみたらどうだろうか。言うだけなら容易いと言われてしまいそうだが、このまま人間本位の開発が進められ、動植物が追いやられる社会になってしまっただけではいけない。せつかく我が国はたくさんの美しい山々や森林に恵まれているのだから、自然と共生していくことができる社会の実現こそが、今私たちが早急に達成しなければならない目標だと思う。

税金を納めることは、しばしば感謝をすることに例えられる。それもそのはずで、税とは普段私たちが当たり前のように享受している、公共サービスという恩恵への対価なのである。だが、私たちの生活は決してそれだけで成り立っているわけではないと思う。「母なる大地」とも呼ばれるように、生き物としての私たちを守っているこの緑豊かな環境にも、感謝していくべきである。環境保護に力を入れ、自然があふれる社会を守っていくことが、自然に対して私たちができる「感謝」だろう。

しかし、この感謝は税無くして実現することは難しい。国民一人一人がきちんと納税することで初めて成り立つのである。この幸せな暮らしを守り、今日も私たちを支えてくれている自然への恩返しをするためにも、これからもしっかりと税を支払い、納めていくことで、少しでも力になればと思う。そして、いつかまた蛍たちが暗闇の中で静かに光り、元気に飛び回るあの美しい景色が見られることを切に願う。